

JOURNAL



Contents

- 市民グループによる調査研究支援事業報告
- 事業紹介…男の子育てセミナー
- 特集…2009年度センター事業計画
- 事業紹介…大学生を対象としたデートDV防止啓発出前講座
- 久留米市におけるDV防止のための基本計画策定に向けた意見書の提出
- 相談室だより…定額給付金とDV被害者
- 男女平等政策室からのお知らせ…地域の課題解決を男女共同歩調で進めよう!
- 登録団体紹介…For Peace
- 図書情報ステーションコーナー…「結婚」という制度

<http://www.city.kurume-fukuoka.jp>

表紙イラスト:「ハート」シリーズ 江原ゆみ子さん(センター登録団体「クラブDJ」所属)



くるめ発

登録団体紹介

For Peace

「平和の大切さを世代を隔えて語り継ぐ」

「For Peace」とは、平和に向けてという意味です。会員16名は、わたしたちの未来(子ども)のため再び戦争の惨害が起ることがないように恒久的な平和を築き、一人ひとりが自分なりの平和を求めて奮闘するグループです。そして、平和に向けて市民のみなさんとも手をつなぎたいと、市内の41団体・グループで構成される「久留米男女共同参画推進ネットワーク」に入り活動しています。平和な社会の土台には、「男女の人間の尊重と男女共同参画社会の実現」こそが不可欠との考えから、毎月の定例会では、身近な平和に関する問題をジェンダーの観点で野合したり、関連の講座や講演会に参加したり、会員同士の交流、情報交換を行なっています。

昨年行った男女平等推進センターとの共催事業(市民公開事業)、「戦争と女性を考える」の別冊会では、学童保育の子どもの参加を得て好評でした。被爆地広島の子供を再誕した別冊会や久留米での被爆体験を子どもたちと共有でき、戦争の悲惨さと平和の大切さを若い世代に伝えることができて喜ばれました。この別冊会の成功が次の企画への意欲を湧かしています。また毎年、久留米女性週間記念事業「くるめフォーラム」にも、実行委員として参加してきました。



図書情報ステーション

新着図書案内

結婚? あなたは? あなたの隣では? きて その選択は?

「結婚」という制度



結婚水河期をのりきる本! 白河 帆子 「離婚」のノウハウを、マンガでわかりやすく紹介

ひとりを選んだ女性たち 恋りの恋の自分を受け入れ、心豊かに生きるために フロレンス・フォーク 「強欲」を曲がなひとりの時間に変える、新たな考え方を紹介



新・女性の選択 結婚 結婚 子育て 結婚 男道 高橋 伸子 女性が仕事を続けるための働き方ガイド

見切りの早い女 すぐにあきらめる男 「出会い難民恋愛時代」の時代 水野 真由美 5人に1人は生涯未婚。恋愛時代の婚活バイブル

●掲載・発行●
久留米市男女平等推進センター
〒830-0037 久留米市南助野町1830-8
えーるピア久留米内
TEL. 0942-30-7800
FAX. 0942-30-7811
URL. <http://www.city.kurume-fukuoka.jp>
Email. danjo-c@city.kurume-fukuoka.jp

●徒歩/西鉄久留米駅より徒歩10分(約700m)
●バス/西鉄久留米駅より徒歩5分
J月久留米駅から約20分
「東口駅前」下車、徒歩3分
●徒歩/市庁舎 徒歩1分ですが、お1人でのお出かけはなるべく公共交通機関をご利用ください。

この冊子は印刷・複製し、再配布してはなりません。

今、男女平等についての児童・生徒の意識は？

調査研究市民グループ 男女共同参画教育を推進する会
「男女平等に関する児童・生徒の意識調査」

久留米市の子どもたちの男女平等意識について、市民グループが調査研究を行い、結果をまとめました。
調査報告は、平成20年6～7月に、久留米市立の全小学校5年生と全中学校2年生にアンケートを配布し、計5,987人から得た回答を統計し分析し、報告書まとめました。
その報告書から、興味深いところをピックアップして紹介します。

1 学校での児童・生徒たち

・・・男(女)だから得(罰)をしたこと

久留米市の小中学校では、比較的早い時期から男女混合名簿が使われはじめ、現在ではすべての市立小中学校で混合名簿が採用されています。

そんな学校生活のなかで「男(女)だから得(罰)をした」ことや、「男子と女子で違う扱いをされた経験」を尋ねた設問では、小5・中2の男女ともに「ない」が4～5割を占めました。

まずは、性別による獲得感情のなさや、扱いに違いのない現実が、広がっているようです。しかし、「わからない」という子どもは同じくらいいるのが気になります。

また、性別と獲得の関係で、中2女子の約2割が、獲得両方とも「よくある」又は「たまにある」と回答している、小5男女や中2男子と比べて高くなりました。その具体的な理由をみると、得をするのは、「駅伝の距離が短い」「重い荷物を運ばなくてよい」などで、逆に損をするのは、「生霊があるから」「女らしくといわれる」などです。

子どもから大人に成長していく中2の女の子の微妙な現実がうかがえますし、命を生み出す喜びにつなげて「生霊」や「出産」のことを伝えきれていない大人の責任を感じさせられます。

一方、小5男子の「男で損をする」理由の記述にあった、「男は料理をつくれぬ」「裁縫ができない」などの感情・意見をみると、男の子たちの思いに対応できていない現実にも、気づかされます。

2 家庭での児童・生徒たち

・・・「男(女)だから～しない」といわれること

ほとんど全ての子どもたちが家庭で、「家の仕事をしない」と言われているのですが、性別を理由にして仕事を求められているのは、図1のように、中2女子が一番多く、「よくある」「たまにある」をあわせると、半数近くが経験しています。

図1: 「男(女)だから～しない」といわれること

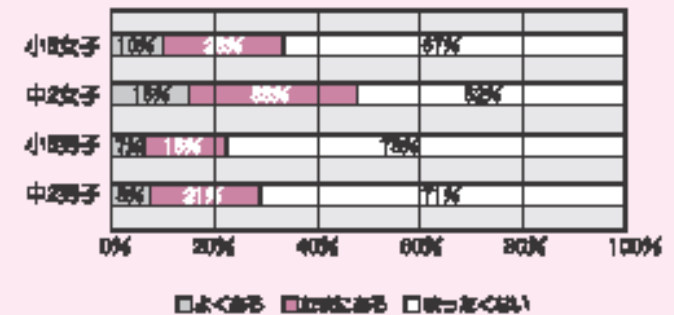
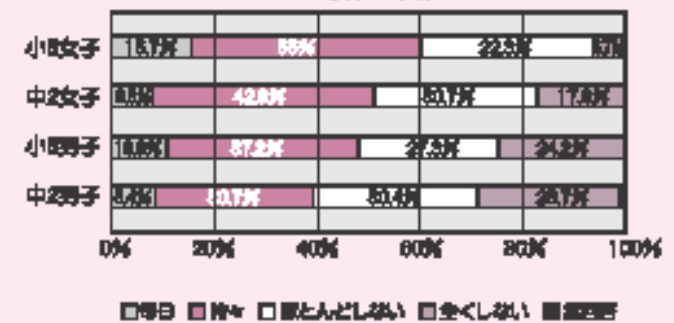


図2: 食事の準備



さらに、子どもたちが家庭で求められる仕事について、「食事の後片付け」「洗濯物たたみ」「食事の準備」「部屋・風呂の掃除」「買い物」をあげて尋ねました。

学年と性別で仕事ごとに現実が見られますが、「食事の後片付け」は、どの子も「毎日」または「時々」している一方、「食事の準備」は、図2のように、小5女子が目立って多く(7割)なっています。概して家事手伝いは、女子が男子より高率で従事しており、逆に家事を全くしないのは、男子に多いこと分かりました。

いずれも、大人たちの性別役割分担意識が影響していることを、心にとめておくべきだと思います。

事業紹介

男の子育てセミナー 2月15日実施
ワーク・ライフ・バランスと男性の育児参加
～自分達の父親モデル～

今回は、仕事と育児の両立や親子関係を中心に、男性の育児参加を促せるセミナーを実施しました。講師長岡賢さんご自身の子育てや日頃の抱負について、楽しく、ユーモアたっぷりに講演していただきました。ここにその内容の一部を紹介します。



大学進学期で仕事掛けの毎日を送っていた私は、父親は仕事をして家族を経済的に支えるものと思っていました。ところが、8人の姉が思春期に入るや次々に不登校、その上、癌がうつ病という事柄になって私は人生の軌道に立たされました。

予期しなかった介護体験を取り、主夫生活を経験してみると、妻の悩みや家事の大変さがわかり、夫をそれまで気づかなかったことが色々見えてきました。仕事を減らすことが幸せだと思っていたことや、誰かに対して自分の考えを押し付けていたことに気づきました。1年の介護体験の余、会社を退職し、以後は、親子・夫婦の「なかなよし」という人間関係を研究する活動をこの16年近く続けています。「なかなよし」とは、お互い助け合って、楽しく生きることです。

固定概念で「自分は正しい」と決め込んでいると、コミュニケーションが取れなくなります。自分の目で見たものが正しいとは限りません。その程度として、この後(余りで育児)は、多くの方に「モノリザの懐かしみ」のおの給を上下差位置にしたものと理解されますが、もとの正位置にしていると怖い感の給であることがわかります。(「わあ～ほんとう」という声)。細部の違いにもかかわらず、妻がモノリザとい

う割り込みで邪魔してしまおうからです。こんなこともありませんから、自分の考えが正しいと決めてしまわずに、相手の気持ちや考えを聞くことが大事です。そんな意識をもつことで、親子関係も良好に築いていけるものと考えています。正確な見方・考え方をするために、「自分は正しい」と断言して、人の意見や気持ちを聞くようにしたいものです。

今、男性の仕事は忙しくて、仕事と生活の両立には苦労し、子育てにはほとんど関わりがない現実があります。しかし、子育ての時間を長くとれなくても、関わりよう心がけることが、必要だと考えています。子育ては性別で役割を決めてやるよりも、両親それぞれの個性を活かして関わりをもったほうが、上手くいくことも、実感していることです。

私の子育ては責任せざったのですが、それでも夫が早く帰ると、お話をしながら話を子どもたちと通じていたことを思い出します。知ることでもそれは楽しいのと一緒だったので、今、その楽しい思い出が私と子どもをつなぐ大事な物となっています。いい親子関係のためには、父親にも子どもとの具体的な楽しい時間が必要なのだと実感する次第です。



グループからのコメント

調査研究をまとめて

男女共同参画教育を推進する会

久留米市では、市民自制作の組織本による男女共同参画教育の取り組みなど、行政と学校現場が協力しあって学校での男女平等を基盤とした歴史があります。平成15年4月発行の「市男女平等を基盤とする条例」の普及と啓発のために、子ども向けパンフレットが作成されたのも、次代を担う児童・生徒の理解を育む意義が認識され続けているためです。

このような中で、市内の小中学校で五十層階の混合名簿が使われているのは自然な現実とみていましたが、今回私たちの調査で、調査等でも五十層階の並び方が、約8割の子どもの現実になっていることがわかりました。

驚かす言えば注文はいろいろあるのですが、学校での子どもたちは、全般的な男女平等の環境を与えられ、性別を理由に差別することも少なく、しかし現代の子どものらしい主張をしながら、選んでいることがわかりました。他方、家庭にあっては、親たちの性別役割分担意識を反映してか、男女別に違った対応を受けていることが調査で確認されました。

しかし、子どもたち自身は、揃って学校でよりも家庭の方で男女平等であるとの実感をもっていることもわかりました。それはなぜなのでしょう。

これが私たちの新たな疑問です。子どもたちの性別役割分担意識が強いために、家庭からの対応の違いをごく当たり前のこととして、違和感なく受け止めているためか。あるいは、家庭に男性の兄弟姉妹がいないために性別の比較をする機会がなく、疑問や疑問をもつこともないためなのか。少子化という少子化している現実のなかで、私たちはもっと注目の必要が不可欠なのかもしれません。

いずれにしても、子どもたちの80%以上が、「女も男も仕事と家庭の両方について責任を持つことがよいと思う」を支持しています。

男女共同参画にむけて教育の使命の大きさを再確認し、今後いっそう、市民、行政、議会(国政)が一体となって、取り組みを進めることが必要だと思います。



2009年度 センター事業計画

男女平等推進センターでは、男女共同参画社会の実現に向けて、今年度もさまざまな研修・イベントを企画・実施していきます。
さあ、センターの開催やイベントに参加・参画して、あたたかな第一歩を
ふみ出してみませんか！！

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
行事予定	女性の参事執行前日 (4/10)		男女共同参画週間 (5/23~29) 長久米市議会特別委員会	久米市議会特別委員会 ピースフルくるめ事業			久米女性週間 (10/1~7) 仕事と子育てを両立する日 (11/28)	女性に対する暴力をなくす週間 (11/2~8) 女性に対する暴力の被害者支援の日 (11/28)	人権週間 (12/1~10) 世界人物デー (12/10)			女性の健康週間 (3/1~8) 国際女性デー (3/8)
1. 女性(男性)学 働く女性(男性)が抱えている力を引き出し、自覚するさまざまな問題を解決するためのヒントがいろいろ、多岐な内容で企画されています。		女性学セミナー	女性学セミナー	女性学セミナー・講演会	女性学セミナー	子育てママの読書会	女性学セミナー	女性学セミナー	女性学セミナー	女性学セミナー	女性学セミナー	女性学セミナー
2. 生き方支援 就業場や学校で求められるスキルを中心に、女性たちのニーズをくみ取りながら企画していきます。自治体グループへの出張や同僚関係構築などの研修も実施します。					セクハラ防止セミナー						テーマ別グループ相談	
3. 就業・チャレンジ支援 女性の就業支援、地域内・社会的ネットワークにつなげるための講座です。女性の再チャレンジをサポートする講座とも連携して実施していきます。			働く女性のパワーアップセミナー									就職をめざすエクセル初級講座
4. 市民活動・交流支援 市民グループ自らが発起・実施する活動の支援や、市民グループの企画・実施など、男女共同参画をめざして活動する市民グループのさまざまな活動で支援します。												
5. 女性と情報 ジェンダーの視点でメディアを眺め直し、情報発信する力を身につけるために、同僚関係構築やネット活用などの研修も実施します。												
6. 記念・交流事業 市民共同参画事業、女性関係の視点での記念キャンペーンなど、交流を深めた市民活動やネットワークづくりを支援します。												

大学生を対象とした「デートDV防止啓発講座」を実施しました

男女平等推進センターでは、昨年、久留米大学「新編社会計画」で「女性問題解決のために」と題した講義を行いました。その中で多くの学生が、「交際中の新しい相手からの暴力（デートDV）」の、特に携帯電話がDVを強化する手段になっているという点に強い関心を示しました。このような経緯から、携帯電話を切り口にデートDVの問題を啓発するプログラムを研究しているNOISHくるめと連携し、1月8日「デートDV携帯電話・ユイとリュウヘイ」と題する久留米大学出前講座を実施しました。

NOISHくるめ（ノッシュくるめ/女性に対する暴力被害をテーマに、性別平等を提議している民間団体）



「デートDV 携帯電話・ユイとリュウヘイ」あらすじ

つきあいだして半年のユイとリュウヘイ。ユイは人気者で気が利いている。そんなユイと付き合っていることはリュウヘイの自慢。二人は毎日のようにメールを交換、会ってもいる。けれども、ユイを独占したがりの、メールまじゅつちゅうでユイの行動を監視するようなリュウヘイの態度に、ユイは不自由さを感じ始める。他の友達たちのつきあいや、部活に行く等自由に過ごす時間を増やしたいユイは、次第にリュウヘイの行動を疎ましく感じ始めるようになる。そんなユイにリュウヘイはさらに執着する。

講座の構成

ワーク1

デートDVとは交際中の相手の脅で起こる身体的、精神的、性的暴力を指し、暴力は相手を監視、支配するために用いられていることを説明。続いてデートDVが起こる背景・主因は、暴力を容認する意識と固定的な性別役割意識にあり、女性は男性に弱くするもの、男性は女性を所有物化し、監視・支配することが許されるとする意識に変えられていることを説明。

寸劇1上演

交際中の学生ユイとリュウヘイが相手に対する自分の気持ちを語り語り。

ディベート

寸劇をふまえて参加者がユイとリュウヘイそれぞれの立場に分かれて、それぞれの気持ちについてグループ内で意見交換。両夜を築いて、相手の気持ちに対する自分の思いをいことを再度グループ内で意見交換し、相手グループに伝える。

寸劇2上演

ユイとリュウヘイが再び登場。みんなから出された考えや意見に対する自分の感情を語り語り⇒ファシリテーターのコメント

ワーク2

デートDV防止啓発のためどのような行動をするかを検討・発表

NOISH くるめからのメッセージ

「知識とは飾りあつこと」との「悪い言い」がデートDVにつながっています。しかも、携帯電話が「飾りあひ」の有効な道具となっています。相手に頻りに電話し、メールを送り、至意のありかたで相手の感情を推し量る、相手の連絡履歴を当然のようにチェックし消去する/おぼろ、といった行動が「愛情」とすりかえられ、まかり通っています。親しくてもこれらは相手への人物被害です。

この講座が、恋人同士であれ別の人格であり、価値観も考えも違うことを認め合い、対等な関係を築くことが大切であることを学ぶきっかけになってほしいと願っています。

「久留米市における配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護のための施策の実施に関する基本的な計画（仮称）策定に向けた意見書」を提出しました！！



平成20年1月に施行された改正「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護のための施策に関する基本的な方針」に基づき、久留米市における施策の実施に関する基本計画を策定するための意見書を3月11日に市長に提出しました。意見書は、男女平等推進センター「DV被害者支援システムづくり」ワーキンググループ調査研究員が5年前に提出した「DV被害者支援システムづくりに向けた報告書」をふまえ、実績を評価し今後必要となる施策性のあるDV対策となるよう事項をまとめました。

この意見書を参考に、いよいよ平成21年度は基本計画の策定作業が始まります。

相談室だより

今回の相談室だよりでは、相談室に寄せられた相談の中から、いくつかの相談事例を紹介したいと思います。相談室では、相談者のプライバシーを保護するために、相談内容の具体的な名前などは伏せて記載しています。また、相談内容が正確であることを確認するために、一部の内容は改題・要約されています。

相談事例1：交際中の相手の監視が苦しい。相手は毎日メールを送り、自分の行動を監視している。自分も相手と付き合っているが、相手の監視が苦しい。自分も相手と付き合っているが、相手の監視が苦しい。自分も相手と付き合っているが、相手の監視が苦しい。

相談事例2：デートDVの被害に遭った。交際相手の暴力に悩んでいる。自分も相手と付き合っているが、相手の暴力に悩んでいる。自分も相手と付き合っているが、相手の暴力に悩んでいる。自分も相手と付き合っているが、相手の暴力に悩んでいる。

相談事例3：交際相手の暴力に悩んでいる。自分も相手と付き合っているが、相手の暴力に悩んでいる。自分も相手と付き合っているが、相手の暴力に悩んでいる。自分も相手と付き合っているが、相手の暴力に悩んでいる。

相談事例4：交際相手の暴力に悩んでいる。自分も相手と付き合っているが、相手の暴力に悩んでいる。自分も相手と付き合っているが、相手の暴力に悩んでいる。自分も相手と付き合っているが、相手の暴力に悩んでいる。



男女平等政策室からのお知らせ

地域の課題解決を男女共同参画で進めよう!

男女共同参画の推進は、地域にとっても重要な課題です。様々な分野に男女共同参画の視点を取り入れていくことは、新たな視点や様々な可能性を生み、多くの人材の活用や、地域の課題の解決につながります。しかし、これまでのように学習等による知識の習得や意識啓発を中心とした取組だけでは十分ではなくなってきているのが現状です。むしろ、現実に生じている様々な課題に対し、地域の実情に応じた実践的な活動を行っていくことが必要となってきています。そうした課題解決型の実践的活動を中心とする男女共同参画の推進への移行、いわば第二ステージへの移行が求められています。

「地域」において、一人ひとりが男女共同参画の取組を推進し、課題を解決する、そのような主体的な取組を様々な組織や団体と連携・協働しながら積み重ねていくことにより、地域が活性化されます。そのことにより、性別や世代を超えて、全ての人が喜びや責任を分かちつつ、個人が尊重され、豊かで活力ある男女共同参画社会を実現することが可能となります。

【資料：「地域における男女共同参画推進の今後のあり方について」男女共同参画会議基本問題専門調査会】

※男女共同参画を学習したい、男女共同参画啓発資料を手に入れたいなどのご要望は
男女平等政策室 (0842-30-8044) へ

